宮古教育事務所便り
第140号
令和8年
10月23日(金)

宮古の風

～新しい風は東から～

木々が少しずつ色づき秋の訪れを感じる季節となりました。
管内の多くの学校では、学習発表会や文化祭など、秋の教育活動が充実する時期となりました。子どもたちは、これまでの学習の成果を発表し、達成感や成長を実感していることと思います。先生方の日頃のご指導に感謝いたします。　　文責：田口

令和8年度　理科「エネルギー」領域指導力向上研修会



９月１日（火）、宮古市立磯鶏小学校を会場に、理科の授業における観察・実験等の体験活動の充実及び小・中学校の理科教育の接続の改善、並びに「エネルギー領域」（物理）における観察・実験の指導力向上を通して、児童生徒の理科学力の向上を図ることを目的として、標記研修会を開催しました。

提案授業の授業者は、磯鶏小学校　鈴木花奈美　教諭でした。授業では、既習内容や生活経験を基に「身近な人の役に立つプログラミングとはどのようなものか」という課題に対して、友達との交流やインターネットによる情報収集を通して考えをまとめるなど、主体的・対話的に深く学ぶ子どもの姿を見ることができました。

また、観察・実験の実習では、「理科教材づくりの演習」として、ものづくりによる体験的な学びを授業に生かしながら、さらに理解を深める指導の在り方について学びました。さらに、「放射線に関する実験」では、放射線の特性について正しい知識をもち、その有用性と危険性の両面を科学的に捉え、適切に判断することの大切さを実感できる実験の在り方について学ぶことができました。

～参加者の感想～

・子どもたちがいきいきと主体的に学習を進めていることに驚いた。目的をもたせるところまでの先生の準備がすばらしく、自分でゴールに向かえるように単元の構成が考えられていた。
・電磁石を例に行った研修では、自分でものづくりをしてみて、子どもがつまずきそうなポイントを理解したり、いろいろな工夫ができたりと、子どもが日常生活と結び付けるために必要なことだと思った。
・放射線については注目が集まりやすい分野であり、危険な性質と便利な性質の両方をもつことからも、一層正しい知識が必要となる。今回の研修で小中のつながりを考えることができた。

令和８年度　低学年教育研修会

９月４日（金）管内小学校低学年担当の先生を中心に、架け橋期のカリキュラムの実施・推進に必要な知識を習得し、幼保小の円滑な接続を深めることを目的として標記研修会を開催しました。

研修会では、いわて幼児教育センター　高橋文子　主任指導主事から幼児教育の「環境を通して行う教育の実際と小学校低学年における学びのつながり」と題して講義をいただきました。講義からは、幼児教育と小学校教育の特徴やそれぞれの教育がつながるための「幼保小の架け橋プログラム」について学びを深めることができました。



演習では「生活科の授業づくり」が行われ、先生方は、自校の子ども達の実態を思い浮かべたり、学校や地域で作成している架け橋期のカリキュラムを活用したりしながら熱心に単元計画作成に取り組みました。また、宮古市立花輪小学校　瀬谷圭太　副校長、山田町教育委員会　鳥居寿美子　児童指導員には、幼児教育アドバイザーとして先生方の質問・疑問にたくさん答えていただきました。ありがとうございました。

先生方が、子ども達の学びを充実させるために自分自身の授業をよりよくしていきたい！という熱意が伝わる研修会でした。

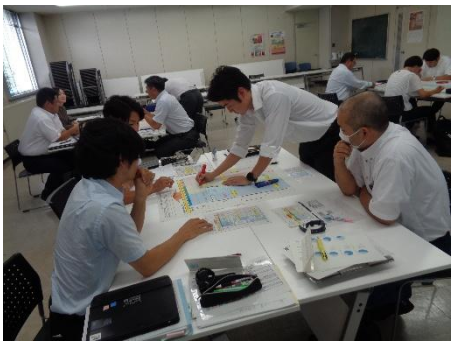
～参加者の感想～

・幼児教育について、不登校対策の視点からも考えさせられた。架け橋期のカリキュラムについては、学校での実施にあたり、さらに理解を深めていきたい。また、幼保小の交流会を行っているので、会の中で話題にして実践に生かしていきたい。
・初めての低学年担任で戸惑うことが多く、その１つが生活科でした。環境づくりは生活科の学習において子どもの深い学びを実現するために重要であることを学んだ。「やってみたい！」の声が多く聞こえる教室、生活科の学習を目指したい。

令和８年度 地区別体力向上研修

９月 10 日（木）に管内中学校の体力向上担当の先生方を対象として、「令和８年度地区別体力向上担当者研修会」を開催しました。講師として、**熊本大学 末永祐介 准教授**をお招きし、体力向上と生活習慣・社会的スキルの改善に関する講義をいただきました。本県が推進する「60(ロクマル)プラスプロジェクト」の重要性を考えたり、自校の体育の授業改善や体力向上に係る取組を再考したりする貴重な機会になりました。

講義では、幼少期の身体活動はその年代の健康状態に影響を与えるだけでなく、大人になってからの身体活動や健康状態にも影響を与えることや、運動時間が多いほど体力や幸福感が高い傾向があることから**幼少期に運動の楽しさや価値を学び、望ましい食生活を身に付けることが重要である**ことが示されました。また、運動＝スポーツと捉えるのではなく、「今よりも負荷がかかっている状態」を目指して、日常の動きを体力向上につなげる、という考えから、**体育以外の教科でも体を動かす工夫（立位姿勢での学習など）すること、体を動かしたくなる環境を意図的に構成すること**について学びました。



協議では、講義から学んだことを基に、自校の取組を振り返り、交流しました。各校で行われている取組を関連させ、校内でより組織的、一体的に行われるよう、熱心に協議する姿が見られました。

～参加者の感想～

・運動嫌いの子どもは、私たち大人が思っているよりも運動することへのハードルが高いのかもしれないと感じた。「運動」の捉えを変えてみたり、日常生活の中に習慣として組み込んだりすることが大切だと分かった。
・「体力向上＝辛いこと」ではなく、楽しく取り組めることを生徒に伝え、「やってみよう」と思わせる工夫をしていきたいと感じた。
・運動の楽しさを伝える授業づくりをしていきたい。また、授業以外の取組も大切だと感じた。「今より負荷がかかっている状態」を「運動」と捉えることで生徒が自発的に活動できるようにしたい。

令和８年度 宮古地区読書ボランティア研修会

10 月７日（水）宮古地区合同庁舎を会場に、読書ボランティアや家庭教育支援チーム、学校図書館支援員等 26 名の参加のもと、読書活動関係者の資質向上を目的とした研修会を実施しました。

「絵本のおもてなし～子ども達にもホスピタリティを～」と題して、講師として絵本セラピスト 金浜順子氏をお招きしました。金浜氏の絵本セラピーでは、日頃、読み聞かせする側の研修者側が読み聞かせをしてもらい、読み聞かせのよさを体験的に学びました。

演習では、絵本セラピーのホスピタリティの視点を基に、子ども達が主体的に読書に関わるようにするためのアイスブレイクについてグループで考え、互いに共有し交流することができました。





～参加者の感想～

・いつもは読み聞かせる側だが、他の人に読んでもらう体験は大人にとっても大事だと感じた。
・読み手の表情や声のトーンも大切なホスピタリティの一つだと理解できた。今後の読み聞かせに生かしていきたい。
・読み手（ホスト）が聞き手（ゲスト）をおもてなしするために必要な笑顔と導入のアイスブレイクの重要性を理解することができた。
・各班に分かれてのアイスブレイクの発表では、「なるほど！こういうやり方があるのか！」と、とても勉強になった。